

第13回 千城台地区学校適正配置地元代表協議会 議事要旨

1 日 時 平成24年8月31日（金） 18時30分～20時40分

2 場 所 千城台公民館 2階ホール

3 出席者

- (1) 委 員 20名 *欠席 2名 児玉委員、中村委員（代理出席：諸橋氏）
- (2) 事務局 6名 *教育委員会企画課 高須課長、池田主幹、国方課長補佐、小口主査、山崎主査補、安井主査補
- (3) 傍聴者 7名

4 報告・議題

- (1) 【報告1】 前回協議会について
- (2) 【報告2】 前回協議会以降の動きについて
- (3) 【議題1】 千城台地区小学校の適正配置について
- (4) 【議題2】 次回開催日時・場所について
- (5) 【議題3】 その他

5 会議資料

資料1：第12回千城台地区学校適正配置地元代表協議会

資料2：千城台地区・小学校の統合の検討シミュレーション

資料3：千葉市における小中連携・一貫教育

資料4：先行地区における統合について『統合の時期』の考え方

資料5：先行地区における統合について『統合の場所』の考え方

資料6：千城台地区小・中学校の施設概要

資料7：千城台地区学区図

6 議事の概要

- (1) 【報告1】 前回協議会について
事務局が前回協議会での協議の内容について説明し、確認した。
- (2) 【報告2】 前回協議会以降の動きについて
事務局が前回協議会以降に実施した「各団体への説明と意見交換」の報告を行った。
- (3) 【議題1】 千城台地区小学校の適正配置について
協議会委員から事務局に資料提示依頼のあった「小中連携教育」や「先行地区における統合の状況」に関連して、「千葉市における小中連携・一貫教育」、「『統合の時期』の考え方」、「『統合の場所』の考え方」について資料説明が行われた後、3つの統合シミュレーションについての各団体での検討の報告及び協議を行った。
次回も引き続き、小学校の適正配置について協議することが確認された。
- (4) 【議題2】 次回開催日時・場所について
平成24年10月26日（金）18時30分から20時30分、千城台公民館にて開催することとした。（*上記で確認されたが、都合により会場を千城台西中学校図書室に変更する。）

(5)【議題3】その他

今後の協議会の進め方等について確認するとともに、事務局から各団体の意見集約や説明等で協力する旨も再確認した。

7 発言要旨

(1) 会長挨拶（氏家会長）

暑い中、お集まりいただき、感謝する。

統合のシミュレーションについては、「考えられる」5通りから、「規模と学区の接続から見て妥当と考えられる」12通りにしぼり、さらに前回協議会において「学年が複数学級ある、組み合わせにおいて規模のバランスが取れている」という視点で3通りまで絞った。そして、本日は各団体で話し合われた内容を報告することになっている。

学校統合については、保護者や地域住民にとっては大変大きなことであり、各団体でも様々な意見が出されていることと思う。その中には「協議会委員に御成台地区の自治会代表が入っていないので、委員の追加をお願いしたい」というご意見もある。

そこで、次のことを確認したい。

①話し合いの場は、本協議会である。

②この協議会は、各団体の意見集約を踏まえて十分に話し合い、合意形成を得たら「統合の要望書」として教育長に提出する役割を担っている。

③委員においては、各団体等の意見集約を十分にお願ひする。それに関して、会長・副会長、事務局が協力できる部分は協力していきたい。

④協議に関する重要な事項についての最終的な判断は、この協議会で行う。

このような考え方から、先程の件については現段階ではご意見として受け取り、今後も東小のPTA代表および自治会代表の委員を通して意見を吸い上げていただき、この協議会で十分協議して進めたいと考えるので、ご理解いただきたい。

(2) 報告

報告1 前回協議会について

〈菅原議長〉 事務局から報告をお願いします。

〈事務局〉 **資料1**を説明する。前回協議会は6月15日に開催され、「千城台地区の小中学校統合」について協議した。その結果、妥当であると考えられる12通りのシミュレーションについて、①単学級にならない。(12学級を下回らない) ②組み合わせ内において、学級数がアンバランスにならない。という基準に基づいて「3つのシミュレーション」を抽出した。そして、この「3つのシミュレーション」を各団体に持ち帰って検討し、その状況を本日の協議会に持ち寄り報告することが確認されている。

また、前回議事要旨(案)の確認時に各委員から寄せられた意見は資料にあるとおりである。この意見の中で、「小中連携」・「先行地区の状況」については、この後の協議の中で説明させていただく。

資料2は、検討資料として各委員に送付した「3つのシミュレーション」であり、表記において、丸囲み数字で学級数を、その隣には児童数を加筆している。

これを基に、各団体で出された意見等については、この後の協議の中で報告していただきたい。

報告2 前回協議会以降の動きについて

〈事務局〉 「協議の周知」を図るため、前回協議会以降も「説明と意見交換」を継続実施しており、7月14日に南小PTAおよび自治会対象説明会、7月29日に第24地区連の町内自治会会長会議、8月30日に北小PTA運営委員会において、説明と意見交換を実施した。

〈菅原議長〉 今の事務局の説明について、質問があるか。

〈一同〉 質問なし

(3) 協議

議題(1) 千城台地区小学校の適正配置について

〈菅原議長〉 事務局から説明をお願いします。

〈事務局〉 資料3「千葉市における小中連携・一貫教育」を説明する。

千葉市の小中連携教育、小中一貫教育については、次のとおり定義している。

- ・小中連携教育：小・中の円滑な接続を図ることをめざした教育
- ・小中一貫教育：既存の小・中学校の配置の中で、学びの連続性を重視した、9年間の一貫カリキュラムを実施する教育

小中一貫教育については、現在「千葉市版小中一貫教育標準カリキュラム」の開発を行うとともに、千葉市型「小中一貫教育」の在り方や進め方の検討を行っている。

小中連携教育については、千葉市の研究指定校における取組みを紹介したい。

- ・幸町第三小・幸町第二中では、体育・音楽の一部で合同授業を行ったり、中学校教員による英語出前授業等を実施したり、小学校の陸上大会・球技大会に向けて中学校生徒による支援を行ったりしている。
- ・更科小・更科中では、体育・音楽の一部で合同授業を行ったり、国語の一部で小中の教師がT・T（ティーム・ティーチング）による指導を実施したり、児童・生徒全員でつくりあげる合同運動会を開催したりしている。

成果については以下のことが挙げられる。

- ・小中学校が一緒に活動することによって、互いの良さを認め合い、個性を伸ばすことができた。
- ・小学校が何度も中学校へ通い、様々な活動をすることで、いわゆる中1ギャップを軽減することが期待できる。
- ・小・中の連携が地域の方々にも受け入れられ、地域の方々との連携にまで広がっていった。

課題としては、次のとおりである。

- ・合同で授業するための事前の打ち合わせ、用具の準備、時間割の調整等が必要である。

続いて、資料4『「統合の時期」の考え方』について説明する。

まず、スケジュール概要として

- ・統合校の開校は、年度始まり（4月）とする。
- ・「統合の合意（要望書の提出）から開校まで」の期間は1年半以上とする。

その理由として以下の3点に因る。

- ・児童生徒同士の交流期間を十分に取る。

資料には、先行地区の例として、高浜地区の取組みを掲載しているが、高浜地

区では統合2年前の3月に要望書を提出したので、2年間の準備期間をとることができ、ゆとりをもって交流行事等を実施し準備を進めることができた。

- ・統合実施に伴う予算の編成を行い、学校の施設整備を行う。

教育委員会での業務として、予算要望を統合1年半前に行い、統合前年度に改修実施設計を行う。

- ・統合準備会では教育環境整備、安全対策、制服、閉校式等の検討を行う。

例えば、通知表の形式を合わせていくなど、具体的な内容を検討する。

次に、資料5『「統合の場所」の考え方』について説明する。

統合校の学校施設・整備面については、「千葉市学校適正配置実施方針」（平成19年10月）に基づいて進めており、機能的に新設校と同程度の整備を行い、大規模改修を基本として、リニューアルを実施している。

次に、先行地区における「統合の場所」の選定について紹介する。

- ①真砂中は、旧真砂一中・二中の統合校であり、真砂一中が統合場所となった。

隣接する小学校跡施設（旧真砂二小）も活用できることが主な選定理由となった。

- ②真砂東小は、旧真砂一小・四小の統合校であり、真砂二中が統合場所となる。

両校の中間に位置し通学が容易であるとともに、体育館が広く地域活動にも至便であるということから選ばれた。これから改修工事が行われる。

- ③真砂西小は、旧真砂二小・三小の統合校であり、真砂三小が統合場所となった。

校舎施設が既に改修済みの箇所が多く、きれいであることから選ばれた。

- ④高洲小は、旧高洲一小・二小の統合校であり、高洲一小が統合場所となった。

高洲地区の学校配置のバランスを重視し、統合校が選ばれた。具体的には、高洲地区の3つの区域に、それぞれ1つずつ学校施設が残るようにした。

- ⑤高浜海浜小は、旧高浜二小・三小の統合校であり、高浜三小が統合場所となった。

校舎の見通しがよく、職員室や校長室から校庭を見渡すことができることや校舎施設が新基準で建てられており耐震性が高いことから選ばれた。

資料6・7は、今までの協議会で既に提示した資料であり、参考として掲載した。

〈菅原議長〉 事務局の説明に対して、質問があるか。

〈氏家会長〉 資料4に掲載している地図を見ると、真砂地区・高洲地区ともにほぼ1.5km以内におさまる地域での統合と考えるが、いかがか。

〈事務局〉 そのとおりで、約2km以内の範囲である。

〈菅原議長〉 他に、質問があるか。

〈一同〉 質問なし。

〈菅原議長〉 次に、3つのシミュレーションについて、各学校PTAや自治会等において話し合ってきていると思うので、まずは各委員から報告をしていただき、その後に協議を行いたいと考える。学校代表から願います。

〈高野委員〉 事務局から説明があったとおり、昨日30日の午前9時から約1時間、PTA運営委員会で適正配置の説明と意見交換を行った。14名の参加であった。

シミュレーション3番が良いという意見が2名いた。理由としては、「すっきり分かれている」「中学校が2校のままの場合、それぞれの統合校に対応できる」ということが出た。

その他の意見としては、次のとおりである。

- ・通学の安全性、通学路、学校施設整備も含めて、適正配置を考えてほしい。
- ・残す学校を先に決めてから、組み合わせを考えると良い。
- ・小学校の統合校に、中学校を合わせると良い。
- ・北小の特別支援学級としては、モノレール駅が近く、交通手段が大変良い。統合は仕方ないと思うが、他の学校になると、環境に対応するのは大変である。
- ・特別支援学級も、統合校に合わせて2つに分かれてしまうのか。そうなった場合先生方の人数は今までのように満たされるのか。

〈大和久委員〉

西小では、7月21日にPTA会議を持った。協議の結果は、前回と同様であり、「数合わせの統合では納得できない、魅力ある適正配置を望む」という方向性である。小中連携教育・小中一貫教育については、先ほど事務局から説明があったが、小中一貫はいろいろとハードルが高いので、西小では小中連携を今までずっと提案してきた。ある保護者が横浜市の先行事例の話を出して、「現在に至るまでの前段階に小中一貫校とそうでない学校を選べるようにしたら、自然と小中一貫校に集まってしまったので、全市で小中一貫教育を推進することになった」という経緯を紹介していた。そういう意味でも、魅力ある学校作りをお願いしたい。

3つのシミュレーションでは、3番が良いという意見が多かった。しかし、組み合わせが「2小・1中」となった場合は、1番でも良いという意見も出た。

〈佐々木委員〉

東小では、7月2日に、22・23年度の本部役員・運営委員会メンバーの中で、現在本校に児童が在籍している保護者と、24年度の現役員の合計86名に対して、自由記述式でアンケートを依頼した。

3つのシミュレーションの中で「1番と2番については、中学校は1校の場合となるか」という質問があったが、私はそうなるだろうと答えた。

その他の意見としては、次のとおりである。

- ・3番の場合、なぜ北4丁目と御成台だけが学区変更をやらなければいけないのか。
- ・北小となった場合、通学路については現時点では千葉市の区域を通り、東小前の交差点まできて登校する方法しか指定できないと学校から説明を受けている。かなり遠くなってしまう。
- ・北4丁目も御成台も歴史的な背景があるので考えていただきたい。
例えば、御成台には学校をつくる予定があったのに、東小に通うことになった経緯があることを踏まえて進めてほしい。
- ・下田や旦谷などの更科小学区から通学している児童はバス通学が多い。北小となった場合、通うのは難しいのではないか。
- ・東小に通学している児童は当分減らないので、統合しなくても良いのでは。
- ・中学校については、部活数が大変少ないので、1つに統合してほしい。

そうするとシミュレーションとしては、1番か2番となると思う。

〈栗山委員〉

7月14日に、保護者・自治会対象の適正配置の説明会を行い、南小PTA34名と南町自治会8名が参加した。以前よりも参加人数が増えているが、全体としては関心が低い状況である。

3つのシミュレーションについては、次の結果となった。

- ・1番の賛成は4名。西・南・旭の組み合わせでは、南小が中心に位置し、学校の

配置バランスが良いことがあげられた。

- ・ 2番は賛成なし。
- ・ 3番の賛成は17件で一番多かった。

理由としては、どちらの統合も、規模的にバランスが良いことが多くあげられた。その他の意見としては、次のとおりである。

- ・ 小規模校は、運動会などの行事で盛り上がり欠けるので、統合した方が良い。
- ・ 安全対策として、大通りでのセーフティウォッチャー活動を活発にすると良い。

〈奥田委員〉

6月23日に、保護者全員に資料を配布し、各学級の懇談会の中で適正配置の話合いをとってもらった。会長である私が各学級を回りながら、意見を吸い上げた。全体として、低学年の保護者の方が高学年よりも関心が高かった。特に、どこの学校が残るのかという質問が大変多かった。

3つのシミュレーションでは、3番がすっきりしていて良いという意見が多かった。その他の意見として、

- ・ 小学校で統合して、中学校でまた統合するのは避けてほしい。
- ・ 小中同時統合が良い。
- ・ とにかく統合時期や組み合わせを早く決めて、統合を進めてほしい。
- ・ 大通りを横断させるのは不安である。
- ・ 南グランド付近では、タクシー等の駐車が多く、不審者も出て不安である。
- ・ コンビニに中高生が多く集まっているので、その前を通らすのは心配である。

という意見が出た。

〈來住委員〉

7月5日にPTA役員会を開き、25名が参加した。

3つのシミュレーションでは3番が多かった。西中が残った場合、学区としても区切りが良いという理由が大半であった。

その他の意見としては、次のとおりである。

- ・ 千城台地区では、基本的には統廃合は難しい。
- ・ 御成台地区はどこに通うのか不安である。
- ・ 西中の特別支援学級は学区が広いことや、北小の特別支援学級は交通のアクセスが良いことなど、特別支援学級のことも考えて統合場所を決めてほしい。

〈笹川委員〉

7月にPTA理事会を行った。3つのシミュレーションについて聞いてみたところ3番が良いという意見が多かった。

意見としては、次の2点が出された。

- ・ 学区にとられない方が良い。
- ・ 中学校が1校となるのか、2校残るのか決めてから、小学校を決めた方が良い。

来月にも理事会があるので、協議会の報告をしながら意見を集約していきたい。

〈諸橋氏〉

北町自治会では、北1丁目自治会の意見集約をしたので、それを報告する。

3つのシミュレーションについては、次の意見が出された。

①番について

- ・ 学校規模のバランスが一番良い。
- ・ 3校統合（西・南・旭）の組み合わせは、東西に広がり過ぎている。

②番について

- ・ 規模のバランスもよくない。
- ・ 南北に広がり過ぎている。中学校が2校残る場合、片方に偏ってしまう。

③番について

- ・地域的なまとまりが一番良い。
- ・耐震化されている北小と東小が分かれていて良い。

このようなことから、北1丁目の総意としては、3番となった。

〈加瀬委員〉

西町では、3つのシミュレーションについて意見がある方はお願いしたい旨の回覧をしたが、全く意見が出てこなかったのので、役員会でも提案した。

主な意見としては

- ・小学校5校を2校にする方向性については異論ない。
- ・組み合わせについては、バランスを考えると1番が良い。
- ・中学校のねじれを解消するには、小学校を3校とする案も考えられる。
- ・東小地区が地理的に長く広いので、町内別に区切るのも良いのではないか。
- ・小学校4 km以内、中学校6 km以内という範囲を考えれば、これらの組み合わせは問題ないと思う。
- ・重視すべきは、安全性である。

というようなことが出された。

〈谷野委員〉

東小学区13自治会にアンケートを配布し、7自治会から回答をもらったので報告する。（*協議会委員にプリント配布）

主な意見は次のとおりである。

- ・御成台は20年前から分譲が始まり、学校建設予定地を見せられた上で、一番近い東小に行けるということで購入した経緯がある。北小に変わることは納得できない。
- ・東小が統合校にならなくて、御成台が北小に通学となった場合は、四街道市立吉岡小に通えるようにしてほしい。（多数）
- ・御成台は児童数が増えていく環境にある。東小のほぼ半分が御成台から通学しているのので、学区変更した場合、東小の児童数がずいぶん減ってしまう。
- ・災害時の避難場所を考える上で、1区域1公共施設（小学校、中学校、高校、公民館、コミュニティセンター）の原則に基づき、学校適正を考えてもらいたい。
- ・小学校は3校残してほしい。1つは小規模校になってしまうが、各区域に1つの学校があるようにすると良い。例えば、旭小・北小・東小を残し、中学校は南中を統合場所として残すと良い。
- ・小学校3校、中学校1校として統合場所を考えると良い。通学距離がどこの学校でも等しくなるように考えてほしい。

〈多田委員〉

南町自治会「自治会便り」で回覧し、会員に情報提供したが特段の意見は出てこなかった。7月14日に南小の保護者対象の説明会に自治会役員8名が参加した。そこで意見を出してもらった、ある方からレポートをいただいたりしているので、それについてご紹介したい。

- ・災害時の避難場所として、少なくとも各区域に1つの学校を残してほしい。
- ・セーフティウォッチャーやパトロールを行っていて、学校とも密接な関係があるので、地域との関係についても考慮していただきたい。
- ・小学校は通学距離を第一に考えると良い。
- ・教育委員会で示している推計は、2年前のものど数字が違っている。条件設定でずいぶん変わってしまうので、数字にこだわらなくても良いのではないか。

- ・平成22年の新聞記事に、文部科学省から学級編制の方向性が示されたものがある。今後、35人学級編制を順次進めていくことが書かれていた。2018年には30人学級にしていくことも書かれていた。このようなことから、数字については弾力的に考えていくべきではないかと思う。
- ・一部小規模校になっても、3校が良いのではないか。
- ・中学校は今後の協議による。

このような意見が出されたが、いろいろな方法をじっくり考えて進めていくしかないと思う。

〈大澤委員〉 北小の評議員としては特に話し合っていないが、育成委員会にも関わっているので、そこで投げかけていきたい。今後も事務局に説明していただくなど考えたい。個人的な意見としては、小学校を2校とした場合、シミュレーションの3番が良いと考える。しかし、無理に2校としなくても、東西南北に最低でも小・中学校が1校ずつあるようにできると良いと思う。

〈石原委員〉 西小学校評議員会でも話題にしたが、避難場所としての学校は大切である。1つ質問であるが、御成台の避難場所はどこか。

〈一 同〉 東小である。

〈石原委員〉 いろいろ考えると、この千城台地区は、真砂地区や高洲・高浜地区のようにうまく進めるのは難しいと思う。

〈鶴岡委員〉 まず質問がある。谷野委員から説明があった中で、「御成台地区を北小にするなら、吉岡小に通えるようにしてほしい」という意見が多数あったということだが、どの地区からあがってきたのか。

〈谷野委員〉 御成台1・2・3丁目、北4丁目、西下田の各自治会から意見があった。特に、御成台2丁目のワカバ87自治会から強い要望が出ている。

〈鶴岡委員〉 それは、シミュレーション3番の場合だと思うが、1番・2番の場合はすべて東小に通うということで良いか。

〈菅原議長〉 まずは各団体から報告をしていただいているので、各報告に対する質問や意見等は後でお願いしたい。

〈土屋委員〉 私は、最初に西中学校PTAとして、現在は東小学校評議員としてこの会議に参加している。今回、御成台1丁目、2丁目の自治会長より、この協議会に御成台地区自治会代表の委員がいないことから、御成台在住の私のところに現状の話を聞かせて欲しいとのことで、もし統廃合を進めるのであれば、この地区が活性化するような方向で行って欲しいことや情報不足とのご意見であった。これまでの中で聞いた主な意見は次のようなことである。

- ・中学校は西中を残してほしい。
- ・吉岡小は、現在単学級であると聞いている。
御成台から北小に通うのなら、吉岡小に通えないか。
- ・通学路も千葉市の区域を通るとなると遠回りになる。
- ・御成台は小学校予定地もあった背景を考慮してほしい。
- ・低学年にとっては、東小であれば通えるが、北小となると通学距離も長くなり、通うのも大変である。

このような意見を十分考慮して進めていただきたい。人・ものについては千城台地区にはものはあるが金がない。先行例もいろいろあると思うので、工夫していただ

きたい。また、協議会の進め方についても、部会を開いて具体策を練ったり、議員に相談したりしながら進めてみてはどうか。専門家を呼んだり、行政がもう少し強く提案したりするなど、具体的に進められたらと考える。

〈酒井委員〉 千城台地区は、地域の広がりがあるので難しい。真砂地区や高洲・高浜地区のようにまとまりやすい地域ではない。地域の活性化ができるのであれば適正配置は良いと思う。個人的には、シミュレーション3番が良いと考える。

〈鈴木委員〉 各小・中学校からの話を聞いて、概ね適正配置は必要であるということはいえと思う。まずは、適正配置の合意形成ができたかどうかということである。統合場所についてはどこにするかという知恵はない。専門的なバックグラウンドがないと決められない。決まったら早く進めたい。もう少し具体的に示さないと難しいと考える。

〈山崎委員〉 昨年度は南中PTAの代表として参加していたが、今年度は評議員として広い視野に立って見えてくる部分がある。何人かに話をしたが、この千城台地区はかなり難しいと考える。理由としては、通学距離がかなりあること、歴史的な背景があることがあげられる。千城台地区では相当協議していかないと進まないと思う。被災地では、災害時に避難場所がかなり込み合ったと聞いている。ここは高台であり、津波は来ないと思うが、避難場所としても十分考えていかなければならない。通学路等も含めて様々な面で考えることが多い。

〈山崎副会長〉 南中学校区育成委員会では、7月の理事会で説明しているが、来月も提案していきたい。特に意見等は出ていない。

〈菅原議長〉 西中学校区育成委員会では、総会後の東部ブロックの会議等でも説明している。今回の育成委員会の会議でも議案として入れているので、意見集約をしていきたい。

〈氏家会長〉 24地区町内自治会連絡協議会の立場として話をする。(協議会委員にプリント配布) 7月29日に本年度の会長会議を開催し、学校適正配置について説明している。第24地区連としての見解は、次のとおりである。

- ・シミュレーションの1番は、数の組み合わせとしてはバランスが良い。
- ・シミュレーションの2番は、特に学校間の規模差が大きい。
- ・シミュレーションの3番は、北4丁目及び御成台1～3丁目の北小区への変更了解が得られるか。前提条件の可否を確認する必要がある。
- ・通学距離の許容範囲基準(小学生4km、中学校6km以内)を合意して協議する必要がある。
- ・新校舎建設で魅力ある学校を目指すのであれば話は別だが、3校統合は無理ではないか。
- ・中学校の統合問題も並行して論議し、小学校統合との整合を図る必要がある。

また、今後の進め方としては、次のように考える。

- ①1区域1公共施設(小/中/高、公民館、コミュニティセンター)の原則で学校配置を選定する。
- ②中学校統合も並行して討議し、一定の方向性を確認して小学校統合との整合を図る。
- ③児童数のバランスは学区調整の運用策を検討する。
また、学区外児童数を見直す。
- ④少数チームで実行2～3案を作って、総合的に効率よく検討すべきである。

議題（２）次回開催日時・場所について

- 〈菅原議長〉 次回開催日時・場所について、事務局から提案をお願いします。
- 〈事務局〉 「おおむね２か月に１度、金曜日の夜の開催とする」ということで実施している。今回は１０月２６日（金）１８：３０～、場所は千城台公民館でいかがか。
- 〈一同〉 異議なし（了承）。
- 〈菅原議長〉 では、次回協議会は１０月２６日（金）１８：３０～２０：３０、場所は千城台公民館とする。

議題（３）その他について

- 〈菅原議長〉 協議（３）その他であるが、委員から何かあるか。
- 〈土屋委員〉 この会議以外に、部会等で話し合う機会を設けるのか。
- 〈石原委員〉 前から提案しているがプロジェクトチームを作るなど、具体策を考える場があると良い。
- 〈事務局〉 次回協議会については、会長・副会長と相談して検討していきたい。
- 〈栗山委員〉 真砂地区等でも、専門家の人たちが入って協議したのか。
- 〈事務局〉 それはしていない。
- 〈土屋委員〉 外部から呼んでというよりも、もう少し人数を絞った中での協議をした方が進むのではないかという考えから発言した。
- 〈栗山委員〉 この協議会が話し合いの場であり、私たち委員はまさに「団体を代表して参加している」という認識でいると考える。
基本的には、この協議会で決定していくことではないか。
- 〈土屋委員〉 例えば、協議会の前半部分で部会に分かれて話し合うなど、形式を工夫することもできる。
- 〈栗山委員〉 確かに発表だけで終わってしまうのはどうかと思うが、この協議会の中で進めていくことが前提であると思う。
- 〈山崎委員〉 毎回、同じように進んできているので、形式等を工夫すると良いと私も思う。
- 〈事務局〉 本日は前回からの宿題があったので、報告会が中心となった。次回協議会については本日の意見を参考に、検討していきたい。
本日、報告の中で出された意見については整理して示したいと考える。
- 〈山崎委員〉 もう１つ意見がある。先日、「千城台教育を考える会」からプリントが投函されていた。こういったプリントについては無視しても良いか。
- 〈菅原議長〉 このプリントには、本協議会の内容について全く書かれていない。また、本協議会のことについて全く知らない住民もいる中で、このプリントが出回っているのはどうかと思う。
- 〈佐々木委員〉 住所を教えていないのに送られてきており、個人情報が出ているのではないか。
- 〈事務局〉 ホームページも含めて、住所等は公開していない。
- 〈山崎委員〉 考える会の代表をこの協議会に呼んでみてはどうか。
- 〈氏家会長〉 各団体で意見集約を十分するというスタンスで、今後もお願いしたい。
- 〈佐々木委員〉 話は変わるが、最速で統合は何年になるか。
- 〈事務局〉 先程も説明したが、要望書を提出いただいてから１年半の準備期間をとる。

そのことと今の協議の進捗状況からすると、平成26年4月は難しいかと思う。
平成27年度となるかと考える。

- 〈鈴木委員〉 平成26年4月ということもできないか。統合の合意が出た段階で要望書を提出し具体的な内容は行政にお任せするという要望ではだめか。
- 〈事務局〉 学校適正配置の必要性の合意だけではなく、具体的に組み合わせや統合の時期・場所等について、こういうふうにしてほしいという要望を入れた要望書を出していただいている。
- 〈菅原議長〉 事務局から、他に議案はあるか。
- 〈事務局〉 冒頭で会長から説明があったとおり、事務局としても「話し合いの場は本協議会である」という認識である。委員の方々にはご負担をかけるが、意見集約や説明等に関しては、事務局としても会長・副会長とも相談しながら協力していくので、困ったことがあればご相談いただきたい。

(4) 連絡

- ・ 次回協議会は10月26日（金）18：30～20：30、千城台公民館で開催する。
- ・ 本日の議事要旨（案）を作成し、委員の方々に郵送し確認していただく。期日までに回答がない場合は「修正なし」とさせていただきます。
また、委員の確認を経て修正・確定した議事要旨と本日の会議資料は教育委員会ホームページで公開する。（*一同：異議なし）
- ・ 本日の協議内容について、各団体の方々にもお知らせいただきたい。

(5) 会長挨拶（氏家会長）

協議会委員の方々の真摯な協議に感謝する。

具体的な協議に入ると、意見をまとめるのは難しい。もう少し、いろいろな角度から十分検討することが必要であろう。

また、事務局には以下の点を要望する。

- ・ 学区外の実態や吉岡小への区域外通学、児童生徒推計の信ぴょう性等について、整理し明確にしていきたい。
- ・ 地域の中で、適正配置のことを知らなかったということがないように周知していくため、この協議会での協議の進捗状況等について、新聞形式で作成したものを配布したいと考えている。その作成をお願いする。

今後、じっくり時間をかけて各団体からの意見も吸い上げながら進めていきたいと考える。

協議会委員におかれては、子どもたちのため、町づくりのために、意見集約等をお願いしたい。